

## 日本はなぜ情報通信革命に乗り遅れたか

深尾京司（一橋大学経済研究所／経済産業研究所）

池内 健太（科学技術政策研究所）

金榮慤（専修大学経済学部）

権 赫旭（日本大学／経済産業研究所）

### 要旨

米国では 1990 年代後半以降、商業、運輸業など、情報通信技術（ICT）を投入する産業で全要素生産性上昇の加速が生じたのに対し、日本では、このような情報通信革命がほとんど起きなかった。日本産業生産性（JIP）データベース等を用いた国際比較研究によれば、日本が乗り遅れた原因として、米国と比較して商業、運輸業などで ICT 投資が停滞していたことが指摘できる。本論文では、『情報処理実態調査』と『企業活動基本調査』のマイクロデータを接合したデータベースや経済産業省等の様々な調査結果を活用して、日本の ICT 投入がなぜ停滞したかを分析した。分析にあたっては、企業規模や社齢が ICT 集約度に与える影響を特に重視した。その結果、1) 中小企業では ICT 集約度が特に低い、2) 社齢と ICT 集約度の間には単純な線形の関係は存在しない、3) 中小企業の ICT 集約度が低い原因としては、有力大学卒業生の大規模企業志向や ICT サービス市場の不備等により、中小企業が直面する ICT サービスの価格が割高であるため、ICT 集約度の低い技術を選択している可能性があることと、流動性制約や ICT 知識普及の遅れ等によって中小企業が最適水準以下の ICT 支出を行っている可能性が指摘できること、等が分かった。